資料３

札幌市緑の審議会
第２回緑の基本計画部会

（２）ワークショップの結果

開催日時：６月１３日（土）、２０日（土）、２７日（土）９：３０～１２：００
開催場所：中央区北２条西２丁目　ＳＴＶ北２条ビル６階１・２・３号会議室
参加者：１３日２０名、２０日１７名、２７日１７名
その他：宮内委員が２０日に、丸山委員が２０日と２７日に来られました。

平成２１年９月２８日

ＷＳ意見概要
テーマ１：市民との協働の推進について
「みどりを介したまちづくりに関わるひとづくり」のために

①みどりに関わる人の環を育みます

●まずは自分たちで・・・。住民の知見を高めることも必要。

・まずは自分たちで行うという姿勢が大切
・住民の意識を変える取組が大切（解説加筆：行政だけでなく、住民も行政ばかりに頼らない意識を持っていくことが大切）
・町内会を含め住民が変わっていく必要がある
・共通の意見をもった人のネットワーク（味方を集める）
・専門的な知見を持つことも大切（解説加筆：知識を持った方々ともつながりを持つことが大切）

●リーダーや調整役が必要

・リーダーシップがいないことが課題
・リーダーになったらブレインを持つ必要がある
・調整役ができる専門家がいるといい
・人材リスト、名簿づくり、情報整理（解説加筆：輪を広げていくためには人材リストづくりなどの情報整理などをリーダーがやらなければならないが、そういった事務的なことがなかなか出来ない）
・町内会と新しい活動のコーディネートを行政がする（解説加筆：町内会など既存の組織や関係する機関などと、活動団体や個人をうまく結び付けていくことは、行政が担っていくことが考えられる）

●個々の活動はある。その活動を繋ぐ地域全体をトータルで見れる人が必要。

・各イベント単位であればリーダーは生まれている
・トータルで見れる人がいれば基本計画のようなマスタープランにもつながる
（ボトムアップでの計画づくりが出来る）

●今あるグループ・活動を大切にしながら環を広げていく。まずは、今の様々な活動を紹介することからはじめよう。

・今あるグループを大切に
・色々なこと、活動があることを紹介すること

●子供を巻き込み、次の世代につなげていくことがとても大事！

・次の世代にどうやってつなげるか
・キャンドルなど楽しい活動を通して子どもを巻き込みながら地道につなげていく
・子どもを巻き込む
・子どもに参加してもらいたい（子どもが興味を持つもの）
・学校と一緒に取り組む

●人が集まれる場所があると良い

・パークセンターの整備状況は？
・多世代の繋がりのため、小さな公園の役割「小さなパークセンター」の設置

②市民に活きる、活かされる支援を進めます

●短期→中期→長期の取り組みが必要

・活動に対する理解は、１０年はかかる
・まちづくりセンターの公園版があるといい
・高齢社会に向けた早急な取り組みが必要・・・短期→中期→長期
・短期的に見て、相談所の設置（ボランティアを含めてもいいのでは）

●誰と誰の役割分担なのか、権限も含めて『協働』をきちんと整理する必要がある

・協働とは（行政⇔住民、住民⇔町内会、住民⇔住民、行政⇔行政）
・協働のとりくみ
・協働というならばどの程度の権限を与えるのか
・防犯パトロール、地域の見守り、学校の活動にはある程度の権限が必要
・市との協働の接点が少ない（一緒に作りあげる気持ちがない）
・町内会と活動団体との考え方の違い
・たて割りが活動を妨げている

●市民が主体で行政を巻き込む行政参加を

・行政を使う
・今ある制度（システム）をうまく使おう
・行政を巻き込む（解説加筆：下の市民が主体で行政をまきこむと同じ）
・行政参加（市民が主体で行政をまきこむ）

●いろいろなことをトータルで行政と相談できる場や、地域単位でこのような意見交換が出来る場があると良い

・行政との接点
・行政と相談できる場（解説加筆：公園だけ、道路だけ、でなく様々なことを相談できる窓のようなもの）
・地域単位でこのような場を持ってもらえれば

●情報の出し方に工夫が必要

・管理の所在がわからない→管理、補助の仕組みをもっとわかりやすく！
・補助制度がわかりづらい。
・補助金の申請の仕方をわかりやすく→そうすれば取り組みやすい
・情報の出し方が大事
・一般の人全員に分かってもらうのは、お金も時間もかかって大変
・市から問いかけ→興味がある人が市に連絡

●資金的援助も必要

・資金的援助

③１９０万市民の知識と経験を活かします

●専門家や様々な能力を持ったお年寄りをうまく使って！

・若い人は忙しい
・お年寄りで色々な能力を持った人をうまく使う
・専門家をうまく使う

その他

＜みどりの基本計画の改定に向けて＞

●計画が出来上がった後、市民もつかえる計画にしよう！

・そもそも、緑の基本計画ってなに？
・緑の基本計画ってそもそも何？
・対象は公園だけではないの？
・出来上がった後どう使うの？
・市民の活動にどう使えるの？　関係あるの？
・どう広報されるの？

●関係部署にも周知し、他で取り組んでいる市民議論も反映させよう

・他の係で取組んでいる市民議論も計画に反映させるべき
・みどりの愛護員ＷＳをやっている
・その意見をここにもくみ上げる事ができるとよい
・関係部署にも周知する（解説加筆：反対意見もあり、こういう WS をやっているということを関係部署にも伝える必要があるということで、相互に納得）

＜その他の意見＞

・審議会の参加者等へのＰＲ
・ＨＰの更新が遅い
・街路樹を増やす、庭の緑を増やす
・植樹桝の活用→市民でも手軽に楽しめる植樹桝の工夫
・家庭の緑を増やす（植樹）
・新しく植える緑以外に、衰えていく自然も守りたい（長期的な視点）

全体質疑等

●環状グリーンベルト構想について

・グリーンベルトの進捗状況はどうなっているのか
・グリーンベルトを具体にエリアを明示することは出来ないのか
・グリーンベルト達成の姿はどのように描いているのか

●情報提供について

・市民との協働について、市として捉えている現計画の課題と達成度について知りたい
・来週までに意見、要望を FAX・メールしても良いか
　⇒あれば、市の担当者宛（鈴木）まで
・参加案内団体情報は公表できないか
　⇒個人情報保護の観点もあり、全ての情報を公表出来るかどうかわからないが、どのような方々に声かけしたかは次回にお示しする。

●ワークショップの進め方について

・事前郵送案内資料と今回のプログラムが違っているのは何故か
　⇒参加想定人数が少なかったため、テーマ毎のグループ分けが困難と判断し、今回のスタイルとした
・参加者の裾野を広げた方が良い
・次週以降、声かけをして新たなメンバーを呼んでも良いか
　⇒今回は、基本的に、３回参加を前提とした事前申込のスタイルを取っているため、運営スタイル等にご理解いただきたい。

ＷＳ意見概要
テーマ２：街をとりまくみどりの保全・活用とネットワーク化
「今ある森や草地、農地を今後も守っていく」ために

④みどりの保全や創出による環状グリーンベルトづくりを進めます

●行政内他部局や他機関との連携が必要

・河川の緑地部分の作り方が問題（樹木をすぐに伐採してしまう）
・河川敷地をうまく活用すればいい。そうすれば広域でのネットワークができる。（ex.厚別もみじ台）
・川を活かしていく
・そのためには、他部局、他機関との連携が必要。

●グリーンベルトの明確なイメージが必要なのでは？

・グリーンベルトの明確なイメージがほしい
・平地系のグリーンベルトが特にイメージしにくい
・街路樹でつなぐの？
・点をつないでいく
・維持管理に参加する動機付けが必要

●大規模公園ではなく、自然のつながりをつくるべき

・ＧＢには総合的な公園はいらないのでは？レクリエーション型ではない
・大規模公園を作る事がＧＢを作る事にはならないのでは？
・連続的なみどりが大切
・街路樹を大切にし、緑をつなぐ

●平地系と山地系は分けて考える。場所ごとに環境は違う。それぞれに役割をきちんと持たせる。

・住んでいる場所ごとに植生、生息動物は違う
・平地系→動物があまりいない
・平地系にも昔は森があった→今は動物が住めない環境になっている→つくっていかなければだめ
・平地系と山岳系のＧＢの役割をきちんと持たせる

●人と人とのグリーンベルトをつくろう。そして小さなことからでも始めよう。

・まずは活動している人を集め、『人』のグリーンベルトネットワークを作る
・モエレでは環境調査をやっている。昔の環境なども勉強しながら、小さなことからやる必要がある。

●広域圏でのつながりを考えた計画に

・札幌市周辺の市町村とのつながりも考えたＧＢの計画であるべき

⑤身近な森の活用を進めます

●自然の魅力情報をまず伝える

・自然の魅力をもっと知りたい（西野のモモンガなど）

●活用方法

・森のイメージを守りつつ活用する事
・里山レベルの活用
・遊び場
・地域情報ＰＲ
・案内ボランティア
・クリスマス会
・スノーキャンドルなど

●人材育成

・細やかな管理のために若い人材が必要

●森のみどりの大切さに気づく取組みも必要

・山火事防災など地元が係わっていく必要がある⇒森を大切に思う気づき

●森の連続が必要

・森の連続性（散歩、ジョギング、サイクリング）
・子どもの環境教育にも活かせる
・河も含めた保全、活用
・南区の事例で、モモンガが山から小学校の木々にもおとずれる連続性も大切

●その他

・森の活用ってなに？　森の「機能」としては理解できるが、、、

⑥森林緑地の機能や生物の生息空間に配慮しながらその保全・創出を進めます

●生物の保全は絶対に必要！メリハリのある空間づくりと保全

・全部ではなく、ポイントをしぼって保全（特定の種）
・公園内でのその土地の種を守る

●人と自然との関わり方の問題をどうするか

・動物を手なずけてしまっているのは問題（厚別もみじ代）

●街中を貫く豊平川を自然の軸とする。公有地も有効活用する。

・豊平川緑地は公園的すぎる⇒自然的な場として豊平川を考えていく必要がある
・豊平川の緑をどうやって残していくか
・清掃工場の緑化
・河畔に対する知識を持って間伐する
・川の外側にある空地を活用していく

●円山、北大、大通を繋ぐネットワーク形成を。新川緑地も河口まで。

・円山、北大、大通など生物が移動できるネットワーク
・新川緑地は河口まで

●生物多様性空間を計画的に守れないか？

その他

●計画には、森だけではなく草地、身近な緑の保全活用を盛り込んでほしい

・大タイトルには草地、農地も入っているが、個々の文言では森のことばかり

●行政の取り組み

・緑保全への優遇制度
・行政の施策

●消えゆく緑の保全をどう考えるか

・今ある緑の保全は大前提
・消えゆく荒廃の緑をどう考えるか
・芝地になる部分（消えゆく緑の保全）

ＷＳ意見概要
テーマ３：街中のみどりの創出とネットワーク化
「都心や住まいのまわりのみどりを充実させる」ために

●街中のみどりを充実させるために(全体に関わること)

●みどりづくりは街づくりの柱に（緑を中心にしたまちづくりに）

・みどりづくりは街づくりの柱だ
・みどりを中心にしたまちづくり
・みどりをまちづくりのツールとして使う

●緑づくりは総合的に！（施策→計画→設計→施工→管理まで一貫性を持つ）

・みどりづくりは総合的に！
⇒計画、施工まで一貫性を持つ

●市民に使われる内容を計画的にいれる

・皆に使われる内容をいれる

●みどりはなぜ必要か。啓発啓蒙、みどりの必要性を伝える言葉が必要。（生物の多様性、観光（経済）、延焼防止、交通事故防止、暮らしやすい街など）

・みどりを増やすのはなぜ？
⇒生物の多様性、観光の視点（経済）
⇒暮らしやすい街のために
・暮らしやすい街になるから
・観光寄与する取り組み
・みどりがあることでどう変わるか
・都心でもやはり活動する場には緑の確保は必要（気持ち、癒し）
・まちなかの小さな森が必要
・都心と住宅部の整備の考え方の違い
・みどりの質も違う
・トチノキ、ハシドイなど住宅地に行くと木陰にある風景
・緑の必要性を伝える「言葉」
・緑の持つメリットを明らかに
⇒緑があることで街がどう変わるのか
⇒延焼の防止、交通事故防止
・地域の「木」を皆で意識する
・啓蒙が大切
・樹のあるメリットを伝える
・啓発が大事
・（啓蒙）意識を変えることが大事
・市民の意識にずれがある

●樹木更新を計画的に

・樹木更新を含めて、樹種や、植える・植えないなど基盤も含めて、札幌のみどりづくりを計画的にきちんと考える
・札幌で生まれた種の子孫を育てておく
・公園づくりの WS に参加する人によって、樹木の保全・伐採が判断されてしまうのは問題

●街路樹を大切に、街路樹を中心とした街づくり。

・街路樹を中心とした街づくり
・街路樹があるところとないところがある
・街路樹をすぐ切ってしまう
・住民からの軋轢が課題
・防風林をテーマに活動→住民の意識が変化した
・樹はあまりにも土木的に剪定している
・弱っているところの対策が必要
・仙台のケヤキ並木のように札幌の街路樹も育つと良い
・街路樹のグリーンベルト
・　道路とみどりのバランス
・

⑦都心のみどりを充実します

●札幌らしさってなんだろう。創成川や大通などはみどりの軸！

・まちの軸を活かす
・創成川、大通公園をまちの軸としてもっと活用を！
・豊平川
・創成川ができると変わるのでは？
・都心部の公園(大通公園)はイベントのため？

●都心のみどりは行政のがんばりどころ

・都心部でのみどりの保全は難しい（民間レベルでは）
・都心部こそ行政のがんばりどころ
・屋上緑化の現状は？
・ヒートアイランド対策としての屋上緑化はあまり札幌に馴染んでいない
・公有地は緑豊かに
・速度を落とすロータリーのみどり

●都心部のみどりを保証する仕組みが必要

・公有地が都心部には少ない
・平地部におけるグリーンベルトの必要性
・大事なみどりを守る条例などはないの？
・札幌市の制度整備の現状は？
・住宅の立替時にみどりも一緒に切られてしまう
・担保する仕組みが必要

●建替え時のみどりづくりを進める

・開発に合わせて緑をつくる

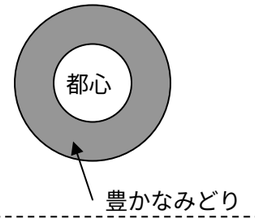
●強引にやることも必要？

・強引にやることも必要

⑧地域らしい身近なみどりを守り・育て・活かします

●みどりの機能分担を踏まえて、区ごと、地域ごとのみどりづくりを

・周辺の大自然からの恵み（空気の緑）が札幌の特徴のひとつ
　⇒各区ごとの目標、さらに地域の細やかな数値目標
・緑情報のデータ化（全体的な整理）
・街の特徴に合わせたみどりづくり
・地域の質（特性）に合わせたみどりづくり



●地域のみどりづくりは、地域が調整役に

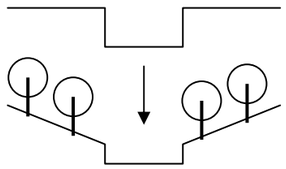
・地域は地域でがんばる
・地域が調整役になる
・ネットワーク（人）しながら問題を一つずつ解決する
・組織がしっかりとしていればいいが、無いところはどうする？

●植樹桝・コミュニティーガーデンでの花づくり→参加のきっかけに

・植樹桝の花づくりは地域活動への参加のきっかけとして活かせる
・街路樹の足元にある植樹桝も地域の人が関わるきっかけになる
・花が好きな人たちを集めてまず始める
・コミュニティーガーデン（気持ちを広げる）
・ガーデニングの楽しさを広める
・町内会の連携、花壇路地のある
・住民の皆が「キレイ」とがんばる路地づくり
・花を植えやすい整備を！

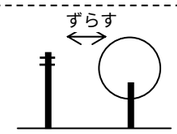
●小さな川を活かしたみどりづくり

・小さな川を活かす
・街中の小さな川に 3 面コンクリート
・小さな川を活かしてみどりの護岸をつくったらよい
・円山界川など
・子ども達も遊べる



●緑づくりと施設づくりをトータルに考え、苦情の原因となる構造的な問題をなくす

・街路樹と街路灯→影が出来て防犯上の問題がある
・構造上の問題　樹←→電柱、照明灯
・電線との競合



●地域に波及するような公園づくりを

・地域に波及するような公園づくり

⑨みどりの回廊づくりを進めます

●みどりの回廊はぜひ進めて！そのためには住民と行政の接点が大事

・みどりの回廊はぜひ進めてほしい
・行政もがんばる
・ボランティアもがんばる
・回廊沿いの地域(人)もネットワークつくって進める
・住民と行政の接点（WS）が大事

●公共のみどりと個人のみどりを繋ぐ

・家庭のみどりを点から線に
・公共のみどりと個人のみどりをつなぐ

●学校や公園などを活用し生物の多様性を目指したビオトープネットワークをつくろう

・生物の多様性を目指すまちづくり
・自然に再生できる場のみどりのつながり
・ビオトープネットワークをつくろう
・学校のみどりと地域のみどりが繋がらない
・学校のみどりをもっと豊かに
・学校と公園でビオトープづくり
・土木部教育委員会（河川道路も）との連携

●個人の庭づくり。北海道スタイルで。

・個人の庭づくり→水のコストが高い
・水が課題になっている
・あまだれ、北海道では雪の問題あり
・雨水、雪水をためたら良いのでは？
・風呂の水を活用
・エコにもなる

その他

・既存のアドバイザー制度などを知らない人が多い
　⇒既存制度をうまく使う⇒アドバイザー制度のチラシを学校に置く
・情報交換の大切さ
・市民活動促進センターとみどりの部署はつながっているの？
・資金！でも頼りすぎは危険
・北方型公園をもっと深く考えたい
・パークセンターをあと 10 年で整備できるか？
・管理上の整備の縦割りの問題（道と市）
・緑の見通し、見え方

ＷＳ意見概要
テーマ４：公園機能の充実と魅力の向上
「今ある公園を大切にし、市民に役立つように見直す」ために

⑩公園の機能を充実します

＜公園機能の充実化のために必要な視点＞

●点ではなくネットワークすることで魅力は向上する

・真駒内には小さい公園がたくさんあり、繋がっている
・緑道を活かした方が良い
・連続することが大事
・今ある資源を大切に
・誰がするの？

●北方型公園にしよう

・推雪空間（北型公園）
・地域の実情に合わせた機能の見直し

●ユニバーサルな公園づくりに配慮して

・休憩の場所として小さな公園
・市民、障害者の声を反映させる⇒バリアフリー、安心安全
・身近にユニバーサルに配慮した公園がない

●生物多様性の機能・防災機能を持たせた公園づくり

・生物多様性の機能を公園にも持たせる
・公園樹木は「生物生息空間」「防災」として大切→そのような観点での見直し
・小さい公園にある水場を活用したネットワーク（ビオトープ）

●公園よりも緑を増やすこと

・公園は数としては恵まれていると思う
・公園より緑を増やす事
・小さい公園が多く、緑（木）が育つ環境が少ない
・「緑」の空間の確保は変わらない

＜使われていない公園をどうする？＞

●街中の小さな公園は利用されていない

＜理由＞
・イヌ、ネコ問題で衛生上の問題があり使われていない
・高齢化で子どもがいない
・子供はいるけど、、、
・子を見る親の意識の違い
・親が公園に行く子どもたちを止めている
・誰も見ている人がいないので公園も危険な場所に
・子どもも習い事や塾で忙しい
・お祭りなど人が集まるイベントもなくなった

●お年寄りもつかいたい（お年寄りの花壇づくりなどの場に）

・小さな公園を活用してお年寄りが花づくりしたいというニーズはある

●子どもだって集まりたい

・小さい子どもの遊び場を確保する事も大切
・子どもだって集まりたい
・人の目があれば親も子供も安心して遊べるようになるなり人が集まってくるのでは？

＜公園の少ないところはどうする？＞

●地域の空地を活用した公園づくりを

・住民の空地を合わせた「認定公園」（10 年くらいでも…）

⑪市民のニーズや評価を踏まえた利活用に取り組みます

●現代のニーズ・地域毎のテーマで考える

・子どもだけでなく、これからの公園として大人が集える公園が必要
・公園の位置付けと利用者がずれている
・地域ごとにテーマがあるはず
・子どもがボール遊びをできる公園があっても良い
・イヌの糞をおいてもいい場所がある公園があても良い
・公園の種類が市民の生活と密着していない→ＰＧ vs 自然（宮が丘）…風致公園
⇒周りの居住者に合わせて公園のあり方を考える
・ワークショップなどの話し合いは全市、地域単位で必要

●地域に合った柔軟なルールづくり

・市民の財産に許可が必要なのはなぜ？
・町内会のイベントに対して柔軟な対応はできないだろうか（火気使用時など）
・一律のルールではなく、地域に合ったルールづくり

●情報、ＰＲをもっとしてほしい

・みどりのセンターの情報
・活動のＰＲ、公園のＰＲ

●まちづくりセンターを核としたニーズ把握

・公園ボランティア登録制度
・今あるもの（まちセン）の活用（ハード）
・ボランティア同士の意見懇談会の実施　←まちセンからの働きかけ（活用）

●ミニパークセンター構想を目指そう

・ミニパークセンター構想を目指すべき（今活動がある場所に設ける）

●観光資源であるモエレをどう考えるか？

・モエレ沼公園を地域に住む自分たちから自慢できるか？
・自分たちが楽しめるということが魅力につながる

⑫安全安心な公園の管理運営を進めます

●地域の力で。そのためには地域住民の覚悟も必要。

・誰かが（地域の人が）手をかけているとマナーも変わる
・町内会からの注意看板が立っていると気をつける
　⇒市の看板だと効き目が薄い
・地域の人が落書きを消したことで防犯につながっている事例もある
・地域住民の覚悟（責任）が必要
・住民の意識の違いもある。

●ハードよりもソフト

・死角をつくらない（ハード面）
・ハードでの禁止（外柵）よりソフトの啓発（市民管理）

●楽しみながら管理に参加できる、関わる魅力や動機付け、愛着を育むことが必要。

・楽しみながらできる、管理の方法が必要
・活動を継続するためのプログラムづくりが不可欠
・公園管理に参加する手法（ハーブ）
・場所に魅力がないと関わりのきっかけにならない
・関わる動機付け（そこの環境の大切さや魅力を知ること）が必要。
・大きな公園は町内会単位の管理が難しい
・愛着を持つことが必要

●まちづくりとの連動

・単に管理委託だけでなく、まちづくり活用、制度
・公園を通した地域づくり（顔が見える）→防災面でも効果あり

●行政の支援のしどころ

・市民におしつけるのではなく支援する仕組み
・お金はない
・協働で維持管理を担うためには資金的援助が必要
・行政がどれだけ支援できるか
・公園づくり、行政が施設を全部作るのではなく、場所を用意し地域でつくる。そうすることで地域の愛着も沸く。
・活動の初動期に行政が支援する
　⇒ただし、手をかけすぎてもだめ
・草かりに関して、よく伸びる時期にボランティア募集するが集まらない。関わる動機付け（そこの環境の大切さや魅力を知ること）が必要。そこを掘り起こし伝える手助けを行政にしてもらえれば。

●維持管理がローコストで出来る公園づくり

・維持管理の手間がかからない、草を伸ばせる環境づくり

その他

・今ある公園の整備に市民の知恵を使う
・団体内で伐採、活かし方を協議する
・指定管理に対する評価は市民の意見も取り入れ質を高める
・公園の運営ではなく、緑の運営とするべきでは？